

住友化学 i-農力だより

<http://www.i-nouryoku.com/index.html>

第78号 平成23年6月30日
発行 住友化学(株) アグロ事業部
お客様相談室 0570-058-669
編集者 佐伯晴子
発行責任者 南 圭三郎

目次

農家さん訪問記 (62)	p.1
住友化学アグログループ紹介 住化農業資材(株)	p.7
今月の肥料紹介	p.8
今月のお奨め農薬	p.9
今月のご相談から	p.10
お役立ちプチ情報	p.11
農薬登録情報	p.12
病害虫発生情報	p.13
最近の「お・美味しい!」	p.14
編集後記	p.15



ヒヨドリ (ヒヨドリ科) と おうとう (バラ科)
富樫 信樹 画

農家さん訪問記(62)

郷土愛が育む複合経営



青木一廣さん

今回は北海道倶知安(くっちゃん)町で主にそば、ばれいしょを栽培し、収穫した作物を加工すると共にネット販売やレストラン経営まで幅広く活躍されている青木一廣さん(61才)を訪問し、お話を伺いました。倶知安町までは、札幌市内からは小樽、余市の町並みを通り、車で約2時間かかりました。倶知安町に近づくと、車窓にニセコアンヌプリの山並みが見え始め、車の正面には羊蹄山が迫ってきました。

訪問の前日までは、天気も悪く、寒い日が続いていたそうですが、青木さんを訪問した時には空が晴れ渡り、二つの山が美しくそびえ、我々を迎えてくれました。

(訪問日: 5月18日)

明治時代から続く開拓者魂

明治29年に青木さんの曾祖父が新潟県から倶知安に入植しました。その3年後に曾祖父のご両親も倶知安に入植しましたので、青木さん自身は青木家の倶知安入植から5代目(曾祖父のご両親から数えて)になります。

当時、倶知安周辺はヤチダモの木が群生していました。この木は高木になるので、

入植した人は周りが見えず、ヤチダモの林を開墾して初めて羊蹄山の存在を知ったそうです。青木さんの曾祖父は故郷からアワ、キビ、そばの種子を持ち込んで栽培を開始しました。当初、栽培がうまくいかず苦労を重ねましたが、まもなく、林業も経営するようになり、俱知安で早い時期に法人経営に乗り出したと町史に記されています。ここに現在の青木さんの複合経営の原点があります。祖父（3代目）の代になると栽培面積も30ha以上となるとともに、大正時代には、第一次世界大戦の影響でデンプン需要が高まり、ばれいしょの栽培が拡大されました。

町にはデンプン製造のための水車が50箇所もあり、「デンプン景気」で沸きましたが、「デンプン景気」が収まってくると、デンプン製造のための水車も減少していきました。第二次世界大戦が終わり、再びデンプン需要が高まり、町にデンプン製造工場が設立されると、ばれいしょの収荷合戦が始まりました。お父さん（4代目）はオート三輪車で走り回り、ばれいしょを集めて回ったそうです。お父さんは昭和45年に（有）青木デンプン工場を設立し、昭和51年には（有）青木農産と改称し、現在に至っています。

青木さんは21才で結婚し、祖父を含めて家族と共に農作業に従事していました。当時お父さんは農業以外に色々仕事をしていましたが、青木さんが29才になった時、お父さんが造園業に主力を注ぐことになり、青木さんが（有）青木農産を含めて、全ての農業経営を引き継ぎました。青木さんが引き継いだ時の栽培面積は15haで、主には



広大な農地 種まきはまだ・・・

ばれいしょ、ビート、小豆を栽培していました。野菜も栽培していましたが、産地としての地位が形成できないので、栽培をやめています。

青木さんの経営方針は堅実に規模を大きくしていくことであり、農業のリスク分散を図るため、アパート経営に乗り出しつつも、借金をして農地を増やすことはせず、基本的に家族だけで栽培できる面積としています。栽培面積は現在では50haになっていますが、自己所有の農地は20haに留め、30haを借地でまかな

っています。青木さんの家族は奥さんと3人の娘さんですが、50ha分の農作業を基本的に次女の娘婿：東原正樹さん（38才）と二人だけでこなし、播種、植え付けと収穫の多忙な時期のみ近所から援助に来てもらっています。2010年には、そば：37ha、ばれいしょ：4ha、大豆：4ha、小麦：5haを栽培しました。

栽培の基本はやはり「土作り」

農業技術者としての青木さんの技術は確かなものです。栽培の基本は「土作り」ですが、独自の視点から、病害虫防除も含めて栽培のポイントは土の健康と考え、長期輪作を実施しています。堆肥は完熟堆肥の使用比率を抑え、収穫後、畑に散らかっている有機物は集めず、そのまま鋤き込みます。また、デンプン工場の生カスを緑肥と



堆肥の山 フカフカの農地

同じと考え、新鮮有機物として入れています。化学肥料は慣行の50%以下におさえています。こうして作られた土は乳酸発酵により、特有の匂いがするそうです。農業指導員は未熟堆肥の投入を疑問視していますが、麦、大豆、そば、じゃがいもの長期輪作体系ではむしろ好結果が得られています。また、多くの病害虫は畦畔から侵入するので、畦畔管理を徹底しています。倶知安町の農地にジャガイモシストセンチュウが侵入した時も、このような管理で、センチュウの侵入を防ぎ、町から種芋確保のための栽培を依頼された時期も

あり、種芋栽培はこの集落で最後までやっていました。こうして栽培された農産物はいずれも高品質で、高い評価を得ており、多くの賞を受賞しています。農場を歩いてみると、礫石が多く含まれているのに、土がふかふかしていて、クッションのような感じでした。長年の土作りに対する青木さんの自信をみる思いでした。農場の端っこにこんもりとした山があり、「これは何ですか？」と問うてみると「堆肥ですよ」と青木さん。「今日のように急に暖かくなると他の農家さんは種を蒔き始めるけど、私は今日は蒔かず明日にする」と青木さんが言います。昨日まで寒かったので、今日気温が上がっても土はまだ冷たい。明日になれば土も温まってやわらかくなるので、種を蒔きやすくなるそうです。土作りも種を蒔くのも、自分独自の経験や信念を持っている人だと感心しました。

アオキアグリシステムの設立

農業経営を引き継いでから、青木さんは北海道4Hクラブにも所属し、農業協同組合の幹部とも議論を重ね、地域全体の振興と農民の地位を向上させる農業を目指して多岐にわたる行動を開始し、地域をあげて北海道農業の理想が達成されればと、頑張ってきました。しかし、40才代半ばになると地域としての夢が全体として衰えてきたと感じるようになり、新しい方針に切り替えようと模索していました。この時、ヒントになったのが、ラベンダーで有名な富良野町の農商工連携モデルです。富良野町では花を植えて人を呼び、町の農産物を加工、販売することで、町全体が参画し、町おこしに成功しています。



羊蹄山の裾まで広がる農場

そこで、青木さんは一つのプランを立て、北海道庁と交渉を開始しました。そのプランは「観光農業を核とした他業種との連携」による地域振興で、町の未来の姿のモデルケースを目指したものです。青木さんはこのプランを「農業、工業、商業の輪作」と表現されています。「輪作」は数種の作物が輪番で栽培されることにより、其々の作物同士がいい影響を及ぼしあうことを目的とした栽培体系ですが、これを農業、工業、商業の連携に当てはめた言葉です。

このプランを近隣の農家と推進としましたが、なかなか賛同を得られず、単独で開始することにしました。北海道庁職員と農業普及員は青木さんのプランに理解を示し、

支援の手を差し伸べ、ついに「北海道チャレンジ21推進事業」として、1700万円の補助金が支給され、平成13年に農業生産法人アオキアグリシステム(有)が発足しました。

アオキアグリシステムは自社生産物を原料とした加工品の開発・販売を行い、倶知安町という立地条件を活用した蕎麦屋「羊蹄山」、レストラン「じゃが太」を経営し、生産から販売まで一貫した仕組みを構築しています。また、豪雪地帯であることを利用し、雪室貯蔵庫を開発して、ばれいしょの販売期間を拡大しています。

現在、アオキアグリシステムでは8の方が雇用されていますが、会社としての福利厚生も手厚く、生活の安定化を図り、地域の雇用創出に貢献しています。

単独でスタートしましたが、50才となった時、人生の夢に進むには今やるしかないという思いでした。青木さんは農・工・商連携システムによる地域振興の夢は変えておらず、このシステムが「北海道チャレンジ21推進事業」として認定され、北海道の方針とも沿っており、地域振興に貢献できるとの強い信念を持っています。

ばれいしょの栽培・加工・販売



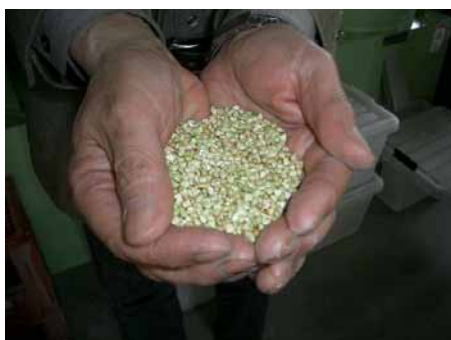
お昼にいただいた、じゃがいもづくしのランチ(美味!)

青木さんは収穫されたばれいしょの60%をHAL(北海道農業企業化研究所)財団を通して、残りの多くは農協を通して販売しています。青木さんにとってHAL財団は単に販売ルートではなく、新農業システム、栽培方法を学び、自分を磨く場でもあり、その結果として、平成18年にHAL財団から優秀賞(経営部門)を受賞しています。

販売先はHAL財団、農協のみならず東京の三ツ星レストランにも直接販売しています。青木さんが作るばれいしょの品質を知ったレストランのシェフから「直接送って欲しい」と要望され、送料を加算するとかなり高価になりますが、安定的に販売されています。雪室貯蔵されたばれいしょをレストラン「じゃが太」でコロッケとして出されているのを頂きましたが、甘味が増し、味付けが全くいらぬほど美味しいコロッケでした。

さらに、ばれいしょ生産に関するグローバルGAP認定農場となる様に取り組み始めています。近い将来円滑に輸出し、良いものを作って高く売る体制を準備しています。また、青木さんはポテトペースト製造に関する特許を北海道庁と共同で取得しています。現在はポテトペーストに関連した事業は手がけていませんが、近い将来、この事業を開始する予定です。

そばの栽培・加工・販売



ばたんそばの実を見せていただきました

この周辺の畑は羊蹄山の火山礫が多いため、ばれいしょを栽培すると、礫石による、収穫機の傷みが激しく、また、作業効率も高くありませんでした。そこで、青木さんはアオキアグリシステムを設立する以前から、栽培の主体をばれいしょからそばにシ

フトすることを計画していました。栽培する品種は「ぼたんそば」を選んでいきます。青木さんは元来大変な蕎麦好きで食べて楽しく健康になるそばを栽培したいと、美味しく、栄養機能性が高い「ぼたんそば」を選びました。アオキアグリシステム設立の前年（平成12年）にそば栽培にシフトすると同時に、次女の娘婿東原さんがホームページを立ち上げ、インターネットで全国に情報を流しました。さらに、日本蕎麦協会の雑誌を通じて、全国の主な蕎麦屋さんとコンタクトを取りました。反響は各地から入り、今では全国の蕎麦屋さんへ直接出荷しています。



そばの実を選別する機械

「ぼたんそば」は栽培が難しく、収量性が低いとされていますが、青木さんは通常の年でも北海道の平均2倍の収穫量があり、多いときは反収280kgを上げたことがあります。ここにも、青木さんの農業技術者としてのレベルの高さが見て取れます。この結果、平成21年には日本蕎麦協会から「栽培の困難な品種の栽培技術」が評価され日本蕎麦協会長賞を受賞しています。



蕎麦屋「羊蹄山」前にて

アオキアグリシステムでは蕎麦屋「羊蹄山」を営んでいます。この蕎麦屋の厨房に隣接して製粉場があり、ここで挽いた蕎麦粉を厨房で調理し、お客さんに出しています。まさに「挽きたて、打ちたて、茹でたて」です。残念な事に、取材当日はあいにくの定休日！自慢の「ぼたんそば」を食べられませんでした。心残りです。

夢はさらに次の一步

高品質の商品を提供し、消費者と直接価値観を共有するのは青木さんの重要な運営方針です。商事会社等からそば、デンプンの取り扱いの申し込みがあった場合でも、まず、栽培現場を案内し、品質を確認してもらい、担当者との間の信頼関係を築くことから始めます。

青木さんは現在の栽培面積を増やすつもりはありません。現在、栽培している生産

湧き水の池とレストランじゃが太（上）
勢いよく流れ落ちる水（下）

物をすべて加工販売すると30億円にもなり、これ以上増加する必要はありません。さらに、青木さんが栽培していることが、信用の基であり、東原さんと二人で栽培できる面積にとどめています。都会に店を出すことを奨める人もいますが、自分の目の届く範囲で密度濃く栽培、加工、販売の連携を進めていく方針です。

しかし、事業の内容は今後も一歩ずつ充実させていく予定です。上述したばれしょの輸出、ポテトペースト事業もそのひとつですが、なんと、所有地内の湧き水の水路に2箇所ある4mの落差を利用した水力発電も計画しています。

青木さんの思いは「町で一番になるのではなく、地域の産地形成に貢献して115年であり、さらに発展させたい。

ここで生まれて、この土になる[身土不二]の精神で、当たり前を当たり前にするのが幸せです。」といったものです。あくまで謙虚にかつ地道に事業を展開する青木さんの心に郷土に対する強い愛情が感じられました。



ニセコアンヌプリ



羊蹄山

青木さんの農場からの風景です。最高の景色をいただきました。

あとがき

農家さんを訪問する前に、今回の農家さんを紹介して下さった、サングリン太陽園



倶知安センターを訪ねました。その建物には、大きな看板があり、北海道うまいもの農園と書いてありました。建物の2階部分が事務所で1階部分は、野菜直売所でした。青木さんのところで収穫され加工された商品が販売されているという事もあり見せていただきました。最近見かける「道の駅」のように、倶知安で収穫された商品や道内の農産加工品がたくさん並んでおりました。3月には震災地応援セールを開催



したそうです。建物からニセコアンヌプリや羊蹄山がきれいに見えました。定休日でお買い物が出来なかったのが残念でした。

アオキアグリシステム(有)商品陳列

サングリン太陽園株式会社 倶知安センター所長、小島 厚様お世話になり、ありがとうございました。(山脇・手塚)

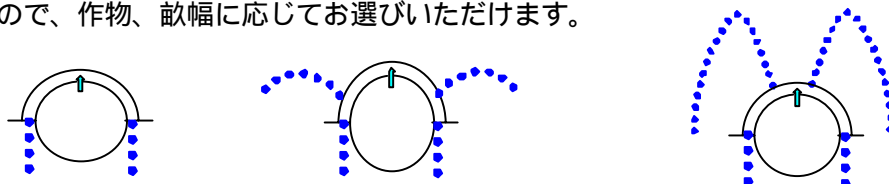
[目次へ戻る](#)

住化アグログループ紹介 **住化農業資材株式会社**

大好評 独創の二重管 ネオドリップシリーズ イチゴ・トマト・ナス等果菜類に最適な灌水チューブ

現在、住化農業資材では、従来のスミサンスイシリーズと点滴チューブの良い点を合わせもった次世代の二重管チューブ「ネオドリップ」を販売しています。

散水状態、散水量によってシタトビ 01L、ヨコシタ 02L、04L、ウエシタ 02L、04L の5種類に分かれているので、作物、畝幅に応じてお選びいただけます。



		シタトビ 01L	ヨコシタ 02L	ヨコシタ 04L	ウエシタ 02L	ウエシタ 04L
散水孔 間隔	上孔	なし	10cm 千鳥	5cm 千鳥	7.5cm 千鳥	5cm 千鳥
	下孔	5cm 千鳥	10cm 千鳥	10cm 千鳥	15cm 千鳥	10cm 千鳥
均一散水長		80m	80m	60m	70m	60m
散水量		0.15 /分.m	0.18 /分.m	0.35 /分.m	0.20 /分.m	0.35 /分.m

「ネオドリップ」の特徴

散水孔ピッチが狭く、畝を広範囲に帯状に濡らす。

奥行き 60～80m でも片押しで散水可能（商品によって異なります）。

散水幅が一定で、栽培ベッドや畝から飛び出さず、通路が濡れない。

散水孔が大きいので、目詰まりが少ない（0.3～0.5mm）。

散水開始時のタイムラグが少なく、末端まで均一灌水が可能。

液肥混入器（商品名：スミチャージ）を使って施肥が可能。

専用巻き取り機（商品名：M用巻取機）を使って巻き取りが可能、さらに収納が容易。



【お問い合わせはこちらまで】

住化農業資材（株）本社 灌水資材部 TEL：06 - 6204 - 1241

北海道営業所 TEL：011 - 382 - 2541

東日本営業所（栃木）TEL：0285 - 23 - 1935

四国営業所 TEL：0897 - 32 - 3684

九州営業所

TEL：0968 - 37 - 4450

[目次へ戻る](#)

今月の肥料紹介 攻めの穂肥で安定多収・食味向上を実現！

この度の東日本大震災で被災された方々に、謹んでお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

今年は震災の影響で基肥を必要量施せなかった圃場も散見されます。このような圃場で安定多収・食味向上を図るには、穂肥の使い方が重要です。コシヒカリ、あきたこまち、ひとめぼれ等の良食味米品種では、倒伏を避けるため、穂肥を通常適期より約1週間遅らせて施しています。スミショートは倒伏軽減剤を含むため、本来の適期である幼穂形成期(出穂25日前)に安心して施用でき、安定多収、食味向上効果が期待できます。スミショートを使った攻めの穂肥で穂を充実させ、実りの秋を迎えましょう。

倒伏しやすい水稻の栽培に
倒伏軽減剤入り 穂肥専用肥料



スミショート®

倒伏軽減 安定多収 食味向上 稲姿良好



スミショート区



N-P-K
14-2-17+倒伏軽減剤

スミショート14 10kgポリ袋
スミショート21 15kgポリ袋
スミショート28 20kgポリ袋

慣行栽培区



N-P-K
23-1-11+倒伏軽減剤

スミショート35 15kgポリ袋

スミショート14：農林水産省肥料登録番号74203 農林水産省農薬登録番号18201 スミショート21：農林水産省肥料登録番号74204 農林水産省農薬登録番号18204
スミショート28：農林水産省肥料登録番号73276 農林水産省農薬登録番号17820 スミショート35：農林水産省肥料登録番号78213 農林水産省農薬登録番号19912

詳しい使い方、施肥設計については、農業技術指導機関等もしくは住友肥料取扱店にご相談ください。

スミショートのお問い合わせはこちらまで・
住友化学株式会社 アグロ事業部 肥料営業部 電話：03-5543-5783

今月のお奨め農薬

野菜類の軟腐病の予防に ボルドー（水和剤）

軟腐病は細菌による病害で、高温・多湿の時に発生しやすくなります。本病は多くの野菜(はくさい、だいこん、トマト、ばれいしょ、にんじんなど)に発生し、果実、花、葉、茎、根などで発病します。発病始めは水浸状の病斑ができ、これが次第に拡大し、軟化腐敗して悪臭を発するようになります。症状が軽く気づかずに収穫・出荷すると、輸送中や市場、あるいは購入後に家庭で発症して問題となることがあります。軟化腐敗は病原細菌が分泌するペクチナーゼと呼ばれる酵素によって作物の細胞の構成物質のペクチンが溶解されて起こります。

病原細菌(エルビニア・カロトボラ: *Erwinia carotovora* subsp. *carotovora*)の生育最適温度は30前後で、土壤中に生存し、罹病性作物が栽培されるとその根のまわりで増殖します。病原細菌は雨などによって土とともに葉上や葉柄にはね上げられ、害虫の食害痕、風雨で生じた傷、水孔、気孔などから侵入し、発病します。軟腐病の防除方法のポイントは下記の通りです。

【耕種的防除のポイント】

- ・ 本病原細菌は乾燥に弱いので、高畝などをしてほ場の排水を良くする。特に、雨水が停滞しないように注意する。
- ・ 管理作業や防除作業の際に作物を傷つけないよう注意する。病原細菌の侵入口を出来るだけ少なくする。
- ・ 罹病性作物の連作を避け、イネ科・マメ科作物などと輪作して病原細菌の密度を減らす。
- ・ 被害株は早めに除去し、ほ場外で処分する。
- ・ 雨天の収穫はさける。

【薬剤防除のポイント】

- ・ 発生してからの防除は困難なので、予防散布を心がける。
- ・ 台風・強風雨後には予防散布をおこなう。
- ・ 食害痕が病原細菌の侵入口になるので、食葉、食根性害虫(キスジノミハムシ、ヨトウムシ、アオムシなど)を防除する。

ボルドー(水和剤)は塩基性塩化銅を有効成分とする保護殺菌剤で、軟腐病の予防散布にお奨めの薬剤です。また、本剤は有機農産物にも使用できます。

ボルドー(水和剤)の希釈液を作物に散布すると、水に不溶性の薄い銅皮膜が作物表面にできます。その後の雨、露、植物が排出する有機酸等によって水に可溶性銅イオンとなり、徐々に溶け出します。銅イオンは病原菌に作用して殺菌作用(孢子発芽阻害、菌糸伸長阻害)を発揮します(微量金属作用)。銅は多作用点阻害剤であり、耐性菌が起こりにくい薬剤です。

なお、ボルドー(水和剤)は多雨・多湿条件下などで多量に銅イオンが発生し、作物体内にとりこまれた時に薬害が起こることがあります。野菜類に使用する場合は薬害に関する留意事項は下記の通りです。

- ・ きゅうり、メロン、キャベツ、はくさいでは 幼苗期には特に薬害が発生しやすいので、中期以降に使用する、高温時の散布は症状が激しくなることがあるのでさける、連続散布すると葉の周辺が黄化したり硬化したりすることがあるので過度の連用はさけるなどが必要です。
- ・ アブラナ科葉菜類(キャベツを除く)に対しては薬害を生ずるおそれがあるので、高濃度(500倍)液の散布はさけます。
- ・ 炭酸カルシウム剤(クレフノンなど)の所定量の添加は薬害軽減に有効ですが、収穫間際には果実などに汚れを生じるので注意が必要です。

なお、住友化学農薬製品で軟腐病に効果のある薬剤には、スターナ水和剤、ナレート水和剤(スターナ・有機銅混合剤)、バリダシン液剤5、マテリーナ水和剤(スターナ・ストレプトマイシン混合剤)、ソタールWDG(スターナ・リゾレックス混合剤)もあります。適用作物をご確認の上ご使用ください。(鳥取)



ボルドー(水和剤)

[目次へ戻る](#)

今月のご相談から

有機農産物の生産に使用できる農薬とは？



Q1: 有機農産物の生産に取り組みたいと考えていますが、病害虫などが発生した場合に使用できる農薬にはどんなものがありますか？

A1: 「有機農産物の日本農林規格（いわゆる有機JAS）」の第4条に、有機農産物の生産の方法についての基準が定められています。以下のサイトでご覧頂けます。

http://www.maff.go.jp/j/jas/jas_kikaku/pdf/youki_kikaku_a091027.pdf

この中の「ほ場における有害動植物の防除」の項には、耕種的防除、物理的防除、生物的防除又はこれらを適切に組み合わせた方法のみにより防除を行うこと。ただし、農産物に重大な損害が生ずる危険が急迫している場合であって、耕種的防除、物理的防除、生物的防除又はこれらを適切に組み合わせた方法のみによってはほ場における有害動植物を効果的に防除することができない場合にあつては、「別表2」の農薬に限り使用することができると記載されています。

当社剤でこの別表2に該当する農薬は以下の通りです。なお、各剤の登録内容の詳細については、「住友化学 i - 農力サイト <http://www.i-nouryoku.com>」でご確認ください。

別表2の表記農薬	当社該当農薬名	特長
デンブ水中和剤	粘着くん水中和剤	ハダニ類、アブラムシ類などに有効
性フェロモン剤	フェロディンSL	ハスモンヨトウの雄成虫を連続的に誘引
天敵等生物農薬	エスマルクDF	微生物農薬（BT剤）で鱗翅目害虫に有効
〃	ゼンターリ顆粒水中和剤	〃
〃	フローバックDF	〃
〃	オリスターA	天敵農薬でアザミウマ類に有効
〃	ゴツツA	微生物農薬でコナジラミ類などに有効
〃	ミドリヒメ	天敵農薬でハモグリバエ類に有効
マシン油乳剤	サマーマシン97	カイガラムシ類、ハダニ類などに有効
〃	特製ハイマシン95	〃
銅水中和剤	ボルドー（水中和剤）	細菌性病害などに予防的な散布で有効

Q2: 「別表2」の農薬の場合、使用上の制約は特に無いと考えて良いのでしょうか？

A2: 「別表2」に掲載されている農薬は、有機農産物に使用可能ではありますが、あくまでも「農薬」ですので、農薬取締法の制約を受けます。従って、各剤の農薬登録内容に従って使用する必要があります。

Q3: 「別表2」の「天敵等生物農薬」とはどのようなものが該当するのですか？

A3: 「天敵等生物農薬」については、天敵等の生物や微生物（生菌、死菌の別は問わない）そのものを使用した薬剤のみを該当とし、微生物が産出した物質等を精製、濃縮した薬剤は該当しません。

（小川）



[目次へ戻る](#)



お役立ちプチ情報 使い易くなったBT剤

今月の話題は…

BT剤はチョウ目（鱗翅目）害虫（幼虫）に優れた殺虫活性を持つ殺虫剤ですが、平成21年12月16日付けの登録変更で使用回数の制限がなくなり、一層使い易くなりました。

BT剤は自然界に広く生息する「バチルス チューリンゲンシス菌」の産生する結晶性タンパク毒素と芽胞が有効成分です。BT剤の作用は食毒作用で、チョウ目（鱗翅目）害虫（幼虫）が葉を食害する際に一緒に食下した結晶性タンパク毒素が幼虫の中腸内のアルカリ性消化液とタンパク質分解酵素で活性化され、幼虫は衰弱死するか、或いは敗血症により死亡します。

■BT剤には下記の特長があります。

- ①生物農薬に属し、人畜、魚介類、鳥類に対する毒性は低いです。
BT剤の脊椎動物に対する安全性は哺乳動物、鳥類、魚類等で試験され、高い安全性が確認されています。
- ②天敵、花粉媒介昆虫（ミツバチ等）に対する影響はほとんどありません。
- ③新JAS法に基づく有機農産物の生産に使用できます。
- ④特別栽培に使用しても農薬使用回数にはカウントされません。
- ⑤散布回数の制限はありません。作物への残留を考慮する必要がなく、ポジティブリスト制度の対象外です。
- ⑥独自の作用メカニズムのため、化学農薬に抵抗性が発達した害虫にも有効です。従って、ローテーション散布の一剤として有用です。
- ⑦野菜類、果樹類などの「類」登録があるので、マイナー作物にも使用できます。

■住友化学のBT剤製品の特性を下表にまとめました。

製品名	BT菌の系統	効果の高い害虫種	
エスマルクDF	クルスターキ	コナガ	オオタバコガ
ゼンターリ顆粒水和剤	アイザワイ	ハスモンヨトウ	ヨトウムシ
フローバックDF			

次回の話題は「**農薬の安全性**」についてです。農薬の安全性がどのようにして確保されているかを解説します。

（山脇）

[目次へ戻る](#)

農薬登録情報 5月25日・6月8日の主な新規登録・適用拡大の内容です

新規登録 平成23年6月8日登録

〔殺虫殺菌剤〕ブラシンキラップフロアブル 農林水産省登録 第22927号

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲	いもち病 かみシ類	8倍	800 mL/10a	収穫21日 前まで	2回以内	無人ヘリコプター による散布

エチプロールを含む 農薬の総使用回数	フェリムゾンを含む 農薬の総使用回数	フサライドを含む 農薬の総使用回数
2回以内	2回以内	3回以内

適用拡大

種類	薬剤名	変更点	作物	病害虫名 適用雑草名	使用量ほか	
殺虫 剤	エスマルクDF	害虫追加	樹木類	ケムシ類	2000倍	発生初期 散布
		害虫名変更		ハスオビエダシャク をシャクトリムシ類 に変更		
殺菌 剤	ブラシン フロアブル	病害追加	稲	墨黒穂病	1000倍 60～150 /10a	収穫21日前まで 2回以内 散布
除草 剤	クレマート乳剤	作物追加	漬物用メロン	一年生雑草	薬量 200～400m /10a 希釈水量 100～150 /10a	1回 定植・マルチ前 (雑草発生前) 全面土壌散布 砂壤土～埴土 全域
		適用雑草名 変更	既登録の適用雑草名「畑地一年生雑草」を 「一年生雑草」に変更			
	クレマート U粒剤	作物追加	漬物用メロン	一年生雑草	4～6kg/10a	1回 定植・マルチ前 (雑草発生前) 全面土壌散布 砂壤土～埴土 全域
		使用方法 変更	トマト きゅうり	「うね間、株間土壌散布」を 「畦間株間土壌散布」に変更		

(佐伯)

[目次へ戻る](#)

病害虫発生情報

6 / 6 ~ 15

北海道

* 6月9日 注意報 あぶらな科野菜 / コナガ

当社登録薬剤:

- ・野菜類・・・エスマルクDF、フローバックDF、ゼンターリ顆粒水和剤
- ・キャベツ、はくさい、だいこん・・・アディオソ乳剤、ハクサップ水和剤、ベジホン乳剤、プレオフロアブル、パダンSG水溶剤など
- ・ブロッコリー・・・ダントツ水溶剤、ダントツ粒剤など
- ・チンゲンサイ・・・パダンSG水溶剤、プレオフロアブル

* 6月15日 注意報 イネ科牧草、麦類、とうもろこし / アワヨトウ

当社登録薬剤:

- ・とうもろこし・・・アグロスリン乳剤、ゲットアウトWDG
- ・麦類・・・スミチオン乳剤
- ・イネ科牧草・・・該当なし

詳細は：<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>**秋田県**

* 6月14日 注意報 キャベツ / コナガ

当社登録薬剤:

- アグロスリン水和剤、アディオソ乳剤、サイアノックス乳剤、サイアノックス粉剤、ダイアジノン水和剤34、ダイアジノン乳剤40、ダントツ水溶剤、ハクサップ水和剤、パダンSG水溶剤、プレオフロアブル等

詳細は：

<http://www.pref.akita.lg.jp/icity/browser?ActionCode=content&ContentID=1141800855249&SiteID=0>**長野県**

* 6月3日(6月6日 JPP-NET発表) 特殊報 きく / キク茎えそ病(ミカンキイロアザミウマにより媒介)

当社登録薬剤:

- ダントツ水溶剤、ダントツ粒剤(アザミウマ類)、ベストガード水溶剤、ベストガード粒剤(ミカンキイロアザミウマ)

詳細は：<http://www.pref.nagano.jp/xnousei/boujo/>**和歌山県**

* 6月3日(6月6日 JPP-NET発表) 注意報 かき / 灰色かび病

当社登録薬剤:ゲッター水和剤

詳細は：

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>**兵庫県**

* 6月13日 特殊報 トルコギキョウ / トルコギキョウ葉巻病(タバココナジラミによって媒介)

当社登録薬剤:ベストガード水溶剤(花き類・観葉植物 / コナジラミ類)

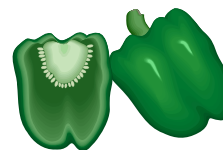
詳細は：<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/chuo/bojo/index.htm>**高知県**

* 6月7日 特殊報 ししとう・ピーマン(促成栽培) / コミドリチビトピカスミカメ

当社登録薬剤:該当なし

* 6月7日 注意報 かんきつ類 / 黒点病

当社登録薬剤:ポルドー(水和剤)

詳細は：<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/byoki/boujoshou/>

適用内容を確認して、地域に適した薬剤をお使いください。

(小川)

[目次へ戻る](#)

最近の「お・・美味しい！」

弊社相談室から佐伯がお送りします
最近の「お・・美味しい！」
女性の目・主婦の目・はたまた酒呑み??の目(笑)で
毎月「これぞ！」というものを紹介します。
どうぞお楽しみに♪♪

被災地支援でフルコース！

震災後から被災地支援を趣旨とした「物産市」が各地で開催されていますね。先月、こちら東京本社でも2回目の「被災地応援マルシェ(市場)」が開催されました。1回目は本社屋内で行われたこの催しも、2回目は規模を拡大し本社屋外での開催となりました。当日は天気も五月晴れで気持ちの良い青空市場となりました。マルシェはお昼 11:30 からの開催です。なのに、皆なんだかソワソワしてしまって、結局ちょっと早めに会場まででかけました(笑)。すると、もう既に人でいっぱい!(しまった!出遅れたか!?)会場には、岩手県の南部せんべいや、福島県の日本酒やトマト、青森県からはりんごのお菓子、茨城県の水産加工品、ほかにもとにかくいっぱい並んでいます。「うわー!どうしょ!?!」ここからアドレナリンが炸裂です!!主婦パワー丸出しで各店舗に切り込んで行き、色々たくさん買い込みました。本当に、今日は(仕事でなく)このためだけに来たのか!?!とつっこまれそうなくらいの買い物量です。福島県の日本酒(真っ先に購入・・・)、米粉入りこんにゃく、新鮮トマト、茨城県のねぎ鯖缶詰といわし梅酢煮缶詰、岩手県の盛岡冷麺・じゃじゃ麺・ビビン麺、青森県のしじみ味噌汁を買いました!すごい重量です。だって本当にお酒とか缶詰とか重いものばかり・・・(笑)。でも、その日のうちに気合を入れて全部持ち帰りましたよ!手がちぎれるかと思うくらい重かったですが(笑)。

帰り道に、いろいろと考えました。「せっかく美味しいような日本酒が手に入ったし、なんとかこれらを使って美味しいおつまみが作れないかな」と。で、できたのが写真の品々です。

福島県トマトと新たまねぎのマリネ
福島県米粉入りこんにゃくの煮物
(醤油はぎょうじゃんにんにくを漬けたもの)
茨城県いわし梅酢煮(これはそのまま)
シメに岩手県盛岡じゃじゃ麺
本当のシメに青森県のしじみ味噌汁



どうですか?まさにフルコースでしょう?ちゃんと、酒呑みには必須?のしじみ汁でシメるところが心憎い(笑)。すべて美味しくいただきました。おつまみが美味しいものだから、お酒も進んでしまって困りましたが(ははは)。

今回、中でも気に入ってしまったのが米粉入りのこんにゃくです。米粉が入っているからか、色は白くて、こんにゃくの「もちり」感にはやや欠けるものの独特の歯ざわりで美味しかったです。このこんにゃくとは、こういう機会が無ければ出会えなかったかもしれません。お酒だって、いわしだって、じゃじゃ麺だって、しじみ汁だってそうです。きっかけは「被災地支援」だったかもしれませんが、こういう美味しいものたちと出会えたことは幸せなことだと思います。それなら、まだまだ出会えていない美味しいものがあるかもしれないですよ?また同じような「被災地支援物産市」が開催されれば、いろいろと試してみたいなと思います。

そういえば先日、上野公園でも同様の物産市が開催されていました。復興に向けてまだまだ地道な支援は必要だと思います。皆さんもこのような物産市に立ち寄ってみませんか?支援に協力できるだけでなく、思わぬ美味しいものにめぐり会えるかもしれませんよ?



お酒!



(佐伯)

[目次へ戻る](#)

~ New ! 編集後記 ~



最近読んだ新聞に韓国での農水産物と加工食品の原料原産地表示についての記事がありました。韓国ではガット・ウルグアイラウンド合意以後、輸入農産物の増加に対処し、公正な競争環境を確保するため、農水産物と加工食品の原産地表示を製造業者や販売業者に義務付けているようです。2010年に表示義務の範囲を拡大する時、食品企業からの反発があったようですが、地元の食品を進んで食べる、韓国伝統の「身土不二」の仏教思想が根強く残っていたことが、表示義務の範囲拡大・強化に繋がったそうです。

この記事を読んだ時、すぐに今回訪問した北海道倶知安町の青木さんの言葉が思い出され、我々凡人が日頃見聞きしない言葉「身土不二」が韓国と北海道に生きていることに感銘を受けました。

昨今の農業情勢は実に複雑です。昨年はロシアの小麦が不作になり、これに加えてバイオエタノール製造向けのトウモロコシ使用が増加し、食用への供給不足が懸念され、世界的に農作物の価格が高騰しました。今年になるとTPP問題が浮上し、参加の是非を巡って国をあげての論争が始まりかけていました。そこに今回の大震災で農業を取り巻く状況は一段と複雑で困難になっています。変化し続ける農業環境の中で、「身土不二」は変わらない視点を持ち続けることの意味を教えていただいたと思います。

(山脇)

東北・関東大震災及び中越エリアで震災にあわれました多くの皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表します。

3月11日14時46分、私も仙台の自宅で被災しました。突然の横揺れに驚く間もなく、次から次と大きな揺れの連続でした。棚の上の物が落下する音が聞こえましたが、確認する余裕もなく、ひたすらソファのそでに掴まって、揺れが収まるのを待っていました。ものすごく怖かったです。地震と同時に停電になり、頼れるのは手元いつもある携帯ラジオでした。いずれは必ず来ると言われていた「宮城県沖地震」に備えていた防災グッズが役に立ちました。ラジオから流れてくるアナウンサーの悲鳴にも似た声・・・津波の様子です。でもそれが後から映像を見るまで、どんな様子なのか全然わかりませんでした。目の前のことで精一杯でした。1日だけの休暇が、その震災の影響で1週間にもなってしまいました。



やっとの思いで東京に戻れたのは20日でした。東京までの直行バスの予約がとれたからです。高速道路は至る所傷だらけでしたし、対向車線を走行している車は、自衛隊車など、「災害救援」の旗を付けていました。二度と経験したくない災害です。

多くの被害がありましたが、多くの人々からの温かな励ましや援助もいただきました。支援のニュースや温かなことばに自然に涙があふれてきます。どれだけ感謝の言葉を口にしても足りないくらいです。今回、農家さん訪問取材の為に訪れた北海道では、名残の桜の花が咲いていました。羊蹄山の悠々とした風景や広大な大地、花々が、「負けるな東北！」と語りかけているようで、しばし心が和みました。

(手塚)

次月号の - 農力だよりは
7月29日(金)の発行予定です。
どうぞ楽しみに！！

[目次へ戻る](#)